

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	(株)ウェル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	やま風
所在地	仙台市若林区蒲町5-1		
自己評価作成日	令和 4年 2月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 3月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

去年の4月より旧伊在荘から新伊在荘へ引っ越しをしました。今年度は新居での生活がスタートしております。コロナ禍で見学やイベントへのお誘いが出来ていない状況ですが、そんな中でも事業所内で楽しんでいただけるような行事等を考え実施しております。その様子をブログに載せたり、毎月のご家族のお手紙に載せる事で現状の様子をお知らせしております。実際にブログをご覧になって伊在荘への入居を希望された方もおり、ブログなどのメディアをご覧になっている方が多いことに気づきました。今後も伊在荘での楽しい様子を載せて沢山のの方に閲覧になっていただけたらと思います。コロナが落ち着いたら地域の方々やご家族が参加できるようなイベントを考え、新しい伊在荘をお披露目できる機会を作りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和3年4月に伊在地区より隣の蒲町地区に移転した。木造2階建てで、1階に「やま風」「せせらぎ」の2ユニット、2階に「あお空」ユニットと事務所がある。開設当初、町内会長や地域包括支援センター、保育所等に挨拶に回り、近隣住民にチラシを配布して、ホームを知ってもらうための働きかけを行った。早期に「サロン」の開催ができるよう取り組んでいる。入居者は、初めはトイレ等の位置が変わり不安な様子もあったが、居室や食堂の配置を変えずにセッティングする等で大きな混乱はなく過ごしている。コロナ禍で外出は制限されているが、行事(バレンタイン等)を増やして入居者と一緒に楽しむ時間を企画し実行している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘**)「ユニット名 **やま風** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに毎年、事業所やユニットの理念を会議などの職員同士の話し合いを通して構築し、ユニットの見えるところに掲示し、共有している。	法人理念「利用者本位」を基に、ホーム理念とユニット理念を作成している。年度始めの11月に話し合い見直しをしている。入居者の思いを大切に、笑顔の絶えない暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で子供会の廃品回収や地域行事が中止となっており実際には参加できていないが、町内会長さんへご協力等の声がけをさせて頂いている	令和3年4月に移転してきた。町内会長や包括支援センター、保育園等に挨拶に回った。近隣住民にチラシを配布して、地域交流を図る働きかけをした。ホームページやブログを見て入居した方がいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験や高校生の職場実習を受け入れたり、ボランティア等を通して認知症を理解していただけるよう努めている。現在はコロナ禍のため実習などが中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ禍で実際に集まることが出来ていないが、議事録などを送り、地域の方やご家族の方々と情報交換をしたり、頂いたご意見を事業所の運営に活かさせていただいている。	偶数月に職員のみで開催している。現状と取り組みや発生事故の対応、評価等を話し合っている。町内会長、包括支援センター、全家族に議事録を送っている。一緒に頑張りましょうとの激励の言葉が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、地域のケア会議等に参加し、情報交換を行っている。現在はコロナ禍で中止となっている。	介護保険の更新や区分変更、生活保護手続きで担当職員に相談し助言を得ている。コロナウイルス関連で市の長寿社会課に相談した。感染防止ガウンや抗原検査キットの支援があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルやネット・書物などの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で確認している。	身体拘束禁止委員会を開催し、全体会議時に職員の勉強会を行っている。帰宅願望や常に職員の関わりを要求する方の対応を話し合っている。職員の統一した声かけやスキップを図りながら傾聴する等見守り支援に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルやネット・書物などの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、現場でも注意をお互いに呼び掛けている。	身体拘束禁止の勉強会と同時に高齢者虐待に関する勉強会を行っている。不適切なケアや言葉使いを見かけたら、その場で業務を交代し後で話合う等の対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できるように配慮し、事業所全体で情報を共有している。現在はコロナ禍で研修が延期になっている事が多いが、そういう場合は前回の資料を使って情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前にご家族と話し合いをしたり、契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご意見をもとにご家族や地域から意見を頂いたり、電話やご家族が面会にいらしたときにも意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	緊急の場合を除いて面会は休止している。電話での対応が主となっている。運営推進会議の議事録を全家族に送り、意見や要望を返信してもらっている。「面会がしたい」の要望が多い。毎月の便りが喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ、意見を出しやすい環境づくりを行っている。	思いやり・安心きれい・楽しむの3つの委員会からの報告、提案を話し合っている。年2回各職員の「評価システム」を基に管理者との個人面談がある。介護福祉実務者研修を受けるサポートを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価システムを活用し、個人面談を行い目標設定し定期的に振り返り評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえるように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。新人教育には新人教育のマニュアルを活用し、統一した指導ができるようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、会社内でも他事業所合同での研修会や交流会を行っている。現在はコロナ禍で中止となっていることが多い。	同法人事業所合同の定期的な研修は、管理者が参加している。地域のケア会議や同業者との交流はコロナ禍で中止となっている。管理者は「なんてん長嶺荘」の外部評価に同席した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族に直接話を聞いたりしながら入居後の関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や面会時にご本人やご家族に話を聞いたりしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報をもとにケアプランを作成しご本人に合ったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることをお願いし生きがいへとつなげている。ユニット内でもそれぞれ得意なことを役割として共に暮らしている実感を感じていただけるように対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には本人の普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの家具や洋服を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、ご家族に確認しながら友人や知人との面会をしていただいている。	コロナ禍で面会や外出は行っていない。家族や友人とは電話で話している。友人から年賀状が届いたので電話を繋いだ。入居者の話す声のトーンが上がり、いつもと違った面が見えた方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性などを理解し席替えをしたり、ユニット内にある小スペースを使ってコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、ご家族や入院先の担当の方へ連絡を取り、本人の状況を把握し、状態によりご家族と今後について話し合いをしたりするケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合はご家族に聞いている。	入居者との関わりを多く持ち、何気ない会話から思いや意向を把握している。楽しいなあや美味しい等些細な言葉でも記録に残している。発声が不自由な方は筆談や「うん」と「いいえ」で答えられる会話を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人との日ごろの会話から得た情報や家族に聞いた情報などを活かし、生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の変化については詳しく記録し、ミーティング等でも情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティング時にモニタリングを行い、スタッフから意見をもらい、実際に本人やご家族に聞いたりしながら意見をもらってケアプランに反映させている。	3ヵ月毎に見直し、6ヵ月で計画を作成している。なんてん仕様のケアプランで、看取りについての希望欄があり半年毎に家族に確認している。生活援助計画に、夜勤帯に留意して行う事を明記した欄を設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランを意識した記録を記入し、特に変化があるときは詳しく記入しスタッフ間で共有する。また、毎月のユニットミーティングの際にまとめとして共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方の協力を頂き歌などを一緒に歌っていただいたり、保育園との交流などを行っていたが、現在はコロナ禍でできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの受け入れ、保育園との交流、中学校の職場体験の受け入れ、子供会の廃品回収の協力を行っていたが、現在はコロナ禍のため実現できていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院等ご家族や本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	殆どの方が月2回の訪問診療を受診している。訪問歯科の利用もある。受診結果は個人記録に記載し共有している。週1回訪問看護が来訪し健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪看を利用し、日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリを病院へ提出し、入院中は時々病院へお見舞いに行き状況を聞いている。また、ご家族へも連絡しその後の動きについてスムーズに対応できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。実際にそのような状況になった場合には再度ご家族の意見を確認し、医師と連携している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時に説明し同意を得ている。半年毎の介護計画作成時にも確認している。状態に応じて主治医と関係者で話し合い方針の統一を図っている。看取りの経験はある。職員の勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加したり、急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、その際に地域の方々やご家族にも参加していただき災害時のご協力を伝えている。現在はコロナ禍でできていない。	移転してから初めての訓練を8月に行った。避難経路を基に各ユニットで計画書を作成した。玄関先で混み合う等戸惑いもあったが課題とし、反省会で話し合った。今年1月に大雨浸水の水害訓練を実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声がけや対応に配慮し、人生の先輩として尊敬し対応している。	慣れ親しんだ言葉使いには十分気を付けている。トイレ誘導の声がけは、トーンや言葉、失敗した時はさりげない対応に配慮している。発声が難しい方には、筆談を交え「うん」と「いいえ」で答えられる会話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択しやすい言葉を選び時にはジェスチャーを交えながら声がけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたいことを探りできるだけ希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら選んでいただき、難しい方には選びやすい方法で選んでいただいている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にお菓子づくりをしたり、野菜の皮むきなどできることはしている。昼食はフリーメニューにし、利用者の好きなものを提供している。	朝と夕食は、業者より温めるだけの状態で配達される。ご飯とみそ汁は作る。昼食は入居者の好みに合わせて職員が調理し、麺類やパンが多い。行事食や誕生日食がある。職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる方には声がけて自立支援を促している。また、感染症防止のためうがい薬でのうがいもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やおむつの交換を行っている。	排泄チェック表を基に、定時の声かけや表情、ソワソワと落ち着かない動作はトイレサインと見逃さずに誘導している。オムツの方3名は居室で交換している。夜間のみポータブルトイレを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らない排便を促すためにオリゴ糖や食物などで排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の希望や状態により任意に変更し利用者の気持ちによって変更している。	週2～3回の入浴を基本としている。3ユニットに自動洗浄湯はり浴槽が導入され、一人ひとりの湯変えの負担が軽減した。浴槽を跨ぐのが困難な方に介護用リフトが導入され安全で安心な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々利用者の要望や体調に合わせて個室で休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見回り等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の処方薬の働きや注意事項を把握し、排便関係は状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性に合わせて洗濯、食器拭き、掃除など無理のない範囲でお願いすることで意欲につなげている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な外出支援についてはご家族と相談の上外出していただき、全体では季節が感じられるように野外の企画を考えて提供している。また、近所の買い物や公園への散歩なども実施している。コロナ禍で出来ない状況もある。	七夕祭り等、季節を感じる外出や秋保里センターに出かけていた。移転後の外出はコロナ禍もあり制限している。正月に近くの神社に初詣に行った。入居者は、長いこと手を合わせて参拝をしていた。天気の良い日はベランダで日向ぼっこをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行ったりスタッフが代わりに購入してくる場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に応じた飾りつけや、利用者の作品などをユニット内に展示し誰もが楽しめる空間を作っている。また、安全に利用できるように家具の配置を考えている。	リビングは明るく、定期的に窓を開けて換気をしている。空気清浄機を置き温湿度は適切に保たれている。壁に手作りの梅の木が飾ってあり季節を感じる。蓄音機から流れる懐メロに合わせて口ずさんでいる。温かく家庭的な雰囲気が漂う空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などところどころに椅子やソファを置いてくつろげる空間を作り利用していただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真を飾り、居心地の良い場所を作っている。	入口に表札が掛けてある。ベッドと洗面化粧台、チェストが備え付けである。椅子やテーブル、テレビ等等馴染みの家具は、家族が配置を考えている。家族の写真、位牌を置き安心して過ごせる部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示をわかりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	(株)ウエル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	せせらぎ
所在地	仙台市若林区蒲町5-1		
自己評価作成日	令和 4年 2月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウエル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 3月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

去年の4月より旧伊在荘から新伊在荘へ引っ越しをしました。今年度は新居での生活がスタートしております。コロナ禍で見学やイベントへのお誘いが出来ていない状況ですが、そんな中でも事業所内で楽しんでいただけるような行事等を考え実施しております。その様子をブログに載せたり、毎月のご家族のお手紙に載せる事で現状の様子をお知らせしております。実際にブログをご覧になって伊在荘への入居を希望された方もおり、ブログなどのメディアをご覧になっている方が多いことに気づきました。今後も伊在荘での楽しい様子を載せて沢山の方に閲覧になっていただけるようにしたいと思います。コロナが落ち着いたら地域の方々やご家族が参加できるようなイベントを考え、新しい伊在荘をお披露目できる機会を作りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和3年4月に伊在地区より隣の蒲町地区に移転した。木造2階建てで、1階に「やま風」「せせらぎ」の2ユニット、2階に「あお空」ユニットと事務所がある。開設当初、町内会長や地域包括支援センター、保育所等に挨拶に回り、近隣住民にチラシを配布して、ホームを知ってもらうための働きかけを行った。早期に「サロン」の開催ができるよう取り組んでいる。入居者は、初めはトイレ等の位置が変わり不安な様子もあったが、居室や食堂の配置を変えずにセッティングする等で大きな混乱はなく過ごしている。コロナ禍で外出は制限されているが、行事(バレンタイン等)を増やして入居者と一緒に楽しむ時間を企画し実行している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘**)「ユニット名 **せせらぎ** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに毎年、事業所やユニットの理念を会議などの職員同士の話し合いを通して構築し、ユニットの見えるところに掲示し、共有している。	法人理念「利用者本位」を基に、ホーム理念とユニット理念を作成している。年度始めの1月に話し合い見直しをしている。入居者の思いを大切に、笑顔の絶えない暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で子供会の廃品回収や地域行事が中止となっており実際には参加できていないが、町内会長さんへご協力等の声がけをさせて頂いている	令和3年4月に移転してきた。町内会長や包括支援センター、保育園等に挨拶に回った。近隣住民にチラシを配布して、地域交流を図る働きかけをした。ホームページやブログを見て入居した方がいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験や高校生の職場実習を受け入れたり、ボランティア等を通して認知症を理解していただけるよう努めている。現在はコロナ禍のため実習などが中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ禍で実際に集まることが出来ていないが、議事録などを送り、地域の方やご家族の方々と情報交換をしたり、頂いたご意見を事業所の運営に活かさせていただいている。	偶数月に職員のみで開催している。現状と取り組みや発生事故の対応、評価等を話し合っている。町内会長、包括支援センター、全家族に議事録を送っている。一緒に頑張りましょうとの激励の言葉が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、地域のケア会議等に参加し、情報交換を行っている。現在はコロナ禍で中止となっている。	介護保険の更新や区分変更、生活保護手続きで担当職員に相談し助言を得ている。コロナウイルス関連で市の長寿社会課に相談した。感染防止ガウンや抗原検査キットの支援があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルやネット・書物などの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で確認している。	身体拘束禁止委員会を開催し、全体会議時に職員の勉強会を行っている。帰宅願望や常に職員の関わりを要求する方の対応を話し合っている。職員の統一した声かけやスキップを図りながら傾聴する等見守り支援に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルやネット・書物などの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、現場でも注意をお互いに呼び掛けている。	身体拘束禁止の勉強会と同時に高齢者虐待に関する勉強会を行っている。不適切なケアや言葉使いを見かけたら、その場で業務を交代し後で話合う等の対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できるように配慮し、事業所全体で情報を共有している。現在はコロナ禍で研修が延期になっている事が多いが、そういう場合は前回の資料を使って情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前にご家族と話し合いをしたり、契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご意見をもとにご家族や地域から意見を頂いたり、電話やご家族が面会にいらしたときにも意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	緊急の場合を除いて面会は休止している。電話での対応が主となっている。運営推進会議の議事録を全家族に送り、意見や要望を返信してもらっている。「面会がしたい」の要望が多い。毎月の便りが喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ、意見を出しやすい環境づくりを行っている。	思いやり・安心きれい・楽しむの3つの委員会からの報告、提案を話し合っている。年2回各職員の「評価システム」を基に管理者との個人面談がある。介護福祉実務者研修を受けるサポートを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価システムを活用し、個人面談を行い目標設定し定期的に振り返り評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえるように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。新人教育には新人教育のマニュアルを活用し、統一した指導ができるようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、会社内でも他事業所合同での研修会や交流会を行っている。現在はコロナ禍で中止となっていることが多い。	同法人事業所合同の定期的な研修は、管理者が参加している。地域のケア会議や同業者との交流はコロナ禍で中止となっている。管理者は「なんてん長嶺荘」の外部評価に同席した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族に直接話を聞いたりしながら入居後の関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や面会時にご本人やご家族に話を聞いたりしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報をもとにケアプランを作成しご本人に合ったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることをお願いし生きがいへとつなげている。ユニット内でもそれぞれ得意なことを役割として共に暮らしている実感を感じていただけるように対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には本人の普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの家具や洋服を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、ご家族に確認しながら友人や知人との面会をしていただいている。	コロナ禍で面会や外出は行っていない。家族や友人とは電話で話している。友人から年賀状が届いたので電話を繋いだ。入居者の話す声のトーンが上がり、いつもと違った面が見えた方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性などを理解し席替えをしたり、ユニット内にある小スペースを使ってコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、ご家族や入院先の担当の方へ連絡を取り、本人の状況を把握し、状態によりご家族と今後について話し合いをしたりするケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合はご家族に聞いている。	入居者との関わりを多く持ち、何気ない会話から思いや意向を把握している。楽しいなあや美味しい等些細な言葉でも記録に残している。発声が不自由な方は筆談や「うん」と「いいえ」で答えられる会話を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人との日ごろの会話から得た情報や家族に聞いた情報などを活かし、生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の変化については詳しく記録し、ミーティング等でも情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティング時にモニタリングを行い、スタッフから意見をもらい、実際に本人やご家族に聞いたりしながら意見をもらってケアプランに反映させている。	3ヵ月毎に見直し、6ヵ月で計画を作成している。なんてん仕様のケアプランで、看取りについての希望欄があり半年毎に家族に確認している。生活援助計画に、夜勤帯に留意して行う事を明記した欄を設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランを意識した記録を記入し、特に変化があるときは詳しく記入しスタッフ間で共有する。また、毎月のユニットミーティングの際にまとめとして共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方の協力を頂き歌などを一緒に歌っていただいたり、保育園との交流などを行っていたが、現在はコロナ禍でできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの受け入れ、保育園との交流、中学校の職場体験の受け入れ、子供会の廃品回収の協力を行っていたが、現在はコロナ禍のため実現できていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院等ご家族や本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	殆どの方が月2回の訪問診療を受診している。訪問歯科の利用もある。受診結果は個人記録に記載し共有している。週1回訪問看護が来訪し健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪看を利用し、日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリを病院へ提出し、入院中は時々病院へお見舞いに行き状況を聞いている。また、ご家族へも連絡しその後の動きについてスムーズに対応できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。実際にそのような状況になった場合には再度ご家族の意見を確認し、医師と連携している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時に説明し同意を得ている。半年毎の介護計画作成時にも確認している。状態に応じて主治医と関係者で話し合い方針の統一を図っている。看取りの経験はある。職員の勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加したり、急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、その際に地域の方々やご家族にも参加していただき災害時のご協力を伝えている。現在はコロナ禍でできていない。	移転してから初めての訓練を8月に行った。避難経路を基に各ユニットで計画書を作成した。玄関先で混み合う等戸惑いもあったが課題とし、反省会で話し合った。今年1月に大雨浸水の水害訓練を実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声がけや対応に配慮し、人生の先輩として尊敬し対応している。	慣れ親しんだ言葉使いには十分気を付けている。トイレ誘導の声がけは、トーンや言葉、失敗した時はさりげない対応に配慮している。発声が難しい方には、筆談を交え「うん」と「いいえ」で答えられる会話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択しやすい言葉を選び時にはジェスチャーを交えながら声がけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたいことを探りできるだけ希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら選んでいただき、難しい方には選びやすい方法で選んでいただいている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にお菓子づくりをしたり、野菜の皮むきなどできることはしている。昼食はフリーメニューにし、利用者の好きなものを提供している。	朝と夕食は、業者より温めるだけの状態で配達される。ご飯とみそ汁は作る。昼食は入居者の好みに合わせて職員が調理し、麺類やパンが多い。行事食や誕生日食がある。職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる方には声がけて自立支援を促している。また、感染症防止のためうがい薬でのうがいもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やおむつの交換を行っている。	排泄チェック表を基に、定時の声かけや表情、ソワソワと落ち着かない動作はトイレサインと見逃さずに誘導している。オムツの方3名は居室で交換している。夜間のみポータブルトイレを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らない排便を促すためにオリゴ糖や食物などで排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の希望や状態により任意に変更し利用者の気持ちによって変更している。	週2～3回の入浴を基本としている。3ユニットに自動洗浄湯はり浴槽が導入され、一人ひとりの湯変えの負担が軽減した。浴槽を跨ぐのが困難な方に介護用リフトが導入され安全で安心な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々利用者の要望や体調に合わせて個室で休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見回り等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の処方薬の働きや注意事項を把握し、排便関係は状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性に合わせて洗濯、食器拭き、掃除など無理のない範囲でお願いすることで意欲につなげている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な外出支援についてはご家族と相談の上外出していただき、全体では季節が感じられるように野外の企画を考えて提供している。また、近所の買い物や公園への散歩なども実施している。コロナ禍で出来ない状況もある。	七夕祭り等、季節を感じる外出や秋保里センターに出かけていた。移転後の外出はコロナ禍もあり制限している。正月に近くの神社に初詣に行った。入居者は、長いこと手を合わせて参拝をしていた。天気の良い日はベランダで日向ぼっこをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行ったりスタッフが代わりに購入してくる場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に応じた飾りつけや、利用者の作品などをユニット内に展示し誰もが楽しめる空間を作っている。また、安全に利用できるように家具の配置を考えている。	リビングは明るく、定期的に窓を開けて換気をしている。空気清浄機を置き温湿度は適切に保たれている。壁に手作りの梅の木が飾ってあり季節を感じる。蓄音機から流れる懐メロに合わせて口ずさんでいる。温かく家庭的な雰囲気が漂う空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などところどころに椅子やソファを置いてくつろげる空間を作り利用していただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真を飾り、居心地の良い場所を作っている。	入口に表札が掛けてある。ベッドと洗面化粧台、チェストが備えつけである。椅子やテーブル、テレビ等等馴染みの家具は、家族が配置を考えている。家族の写真、位牌を置き安心して過ごせる部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示をわかりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	(株)ウェル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	あお空
所在地	仙台市若林区蒲町5-1		
自己評価作成日	令和 4年 2月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 3月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

去年の4月より旧伊在荘から新伊在荘へ引っ越しをしました。今年度は新居での生活がスタートしております。コロナ禍で見学やイベントへのお誘いが出来ていない状況ですが、そんな中でも事業所内で楽しんでいただけるような行事等を考え実施しております。その様子をブログに載せたり、毎月のご家族のお手紙に載せる事で現状の様子をお知らせしております。実際にブログをご覧になって伊在荘への入居を希望された方もおり、ブログなどのメディアをご覧になっている方が多いことに気づきました。今後も伊在荘での楽しい様子を載せて沢山のの方に閲覧になっていただけるようにしたいと思います。コロナが落ち着いたら地域の方々やご家族が参加できるようなイベントを考え、新しい伊在荘をお披露目できる機会を作りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和3年4月に伊在地区より隣の蒲町地区に移転した。木造2階建てで、1階に「やま風」「せせらぎ」の2ユニット、2階に「あお空」ユニットと事務所がある。開設当初、町内会長や地域包括支援センター、保育所等に挨拶に回り、近隣住民にチラシを配布して、ホームを知ってもらうための働きかけを行った。早期に「サロン」の開催ができるよう取り組んでいる。入居者は、初めはトイレ等の位置が変わり不安な様子もあったが、居室や食堂の配置を変えずにセッティングする等で大きな混乱はなく過ごしている。コロナ禍で外出は制限されているが、行事(バレンタイン等)を増やして入居者と一緒に楽しむ時間を企画し実行している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘**)「ユニット名 **あお空** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに毎年、事業所やユニットの理念を会議などの職員同士の話し合いを通して構築し、ユニットの見えるところに掲示し、共有している。	法人理念「利用者本位」を基に、ホーム理念とユニット理念を作成している。年度始めの1月に話し合い見直しをしている。入居者の思いを大切に、笑顔の絶えない暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で子供会の廃品回収や地域行事が中止となっており実際には参加できていないが、町内会長さんへご協力等の声がけをさせて頂いている	令和3年4月に移転してきた。町内会長や包括支援センター、保育園等に挨拶に回った。近隣住民にチラシを配布して、地域交流を図る働きかけをした。ホームページやブログを見て入居した方がいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験や高校生の職場実習を受け入れたり、ボランティア等を通して認知症を理解していただけるよう努めている。現在はコロナ禍のため実習などが中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ禍で実際に集まることが出来ていないが、議事録などを送り、地域の方やご家族の方々と情報交換をしたり、頂いたご意見を事業所の運営に活かさせていただいている。	偶数月に職員のみで開催している。現状と取り組みや発生事故の対応、評価等を話し合っている。町内会長、包括支援センター、全家族に議事録を送っている。一緒に頑張りましょうとの激励の言葉が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、地域のケア会議等に参加し、情報交換を行っている。現在はコロナ禍で中止となっている。	介護保険の更新や区分変更、生活保護手続きで担当職員に相談し助言を得ている。コロナウイルス関連で市の長寿社会課に相談した。感染防止ガウンや抗原検査キットの支援があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルやネット・書物などの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で確認している。	身体拘束禁止委員会を開催し、全体会議時に職員の勉強会を行っている。帰宅願望や常に職員の関わりを要求する方の対応を話し合っている。職員の統一した声かけやスキップを図りながら傾聴する等見守り支援に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルやネット・書物などの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、現場でも注意をお互いに呼び掛けている。	身体拘束禁止の勉強会と同時に高齢者虐待に関する勉強会を行っている。不適切なケアや言葉使いを見かけたら、その場で業務を交代し後で話合う等の対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できるように配慮し、事業所全体で情報を共有している。現在はコロナ禍で研修が延期になっている事が多いが、そういう場合は前回の資料を使って情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前にご家族と話し合いをしたり、契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご意見をもとにご家族や地域から意見を頂いたり、電話やご家族が面会にいらしたときにも意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	緊急の場合を除いて面会は休止している。電話での対応が主となっている。運営推進会議の議事録を全家族に送り、意見や要望を返信してもらっている。「面会がしたい」の要望が多い。毎月の便りが喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ、意見を出しやすい環境づくりを行っている。	思いやり・安心きれい・楽しむの3つの委員会からの報告、提案を話し合っている。年2回各職員の「評価システム」を基に管理者との個人面談がある。介護福祉実務者研修を受けるサポートを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価システムを活用し、個人面談を行い目標設定し定期的に振り返り評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえるように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。新人教育には新人教育のマニュアルを活用し、統一した指導ができるようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、会社内でも他事業所合同での研修会や交流会を行っている。現在はコロナ禍で中止となっていることが多い。	同法人事業所合同の定期的な研修は、管理者が参加している。地域のケア会議や同業者との交流はコロナ禍で中止となっている。管理者は「なんてん長嶺荘」の外部評価に同席した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族に直接話を聞いたりしながら入居後の関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や面会時にご本人やご家族に話を聞いたりしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報をもとにケアプランを作成しご本人に合ったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることをお願いし生きがいへとつなげている。ユニット内でもそれぞれ得意なことを役割として共に暮らしている実感を感じていただけるように対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には本人の普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの家具や洋服を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、ご家族に確認しながら友人や知人との面会をしていただいている。	コロナ禍で面会や外出は行っていない。家族や友人とは電話で話している。友人から年賀状が届いたので電話を繋いだ。入居者の話す声のトーンが上がり、いつもと違った面が見えた方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性などを理解し席替えをしたり、ユニット内にある小スペースを使ってコミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、ご家族や入院先の担当の方へ連絡を取り、本人の状況を把握し、状態によりご家族と今後について話し合いをしたりするケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合はご家族に聞いている。	入居者との関わりを多く持ち、何気ない会話から思いや意向を把握している。楽しいなあや美味しい等些細な言葉でも記録に残している。発声が不自由な方は筆談や「うん」と「いいえ」で答えられる会話を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人との日ごろの会話から得た情報や家族に聞いた情報などを活かし、生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の変化については詳しく記録し、ミーティング等でも情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティング時にモニタリングを行い、スタッフから意見をもらい、実際に本人やご家族に聞いたりしながら意見をもらってケアプランに反映させている。	3ヵ月毎に見直し、6ヵ月で計画を作成している。なんてん仕様のケアプランで、看取りについての希望欄があり半年毎に家族に確認している。生活援助計画に、夜勤帯に留意して行う事を明記した欄を設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランを意識した記録を記入し、特に変化があるときは詳しく記入しスタッフ間で共有する。また、毎月のユニットミーティングの際にまとめとして共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方の協力を頂き歌などを一緒に歌っていただいたり、保育園との交流などを行っていたが、現在はコロナ禍でできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの受け入れ、保育園との交流、中学校の職場体験の受け入れ、子供会の廃品回収の協力を行っていたが、現在はコロナ禍のため実現できていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院等ご家族や本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	殆どの方が月2回の訪問診療を受診している。訪問歯科の利用もある。受診結果は個人記録に記載し共有している。週1回訪問看護が来訪し健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪看を利用し、日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリを病院へ提出し、入院中は時々病院へお見舞いに行き状況を聞いている。また、ご家族へも連絡しその後の動きについてスムーズに対応できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。実際にそのような状況になった場合には再度ご家族の意見を確認し、医師と連携している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時に説明し同意を得ている。半年毎の介護計画作成時にも確認している。状態に応じて主治医と関係者で話し合い方針の統一を図っている。看取りの経験はある。職員の勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加したり、急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、その際に地域の方々やご家族にも参加していただき災害時のご協力を伝えている。現在はコロナ禍でできていない。	移転してから初めての訓練を8月に行った。避難経路を基に各ユニットで計画書を作成した。玄関先で混み合う等戸惑いもあったが課題とし、反省会で話し合った。今年1月に大雨浸水の水害訓練を実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声がけや対応に配慮し、人生の先輩として尊敬し対応している。	慣れ親しんだ言葉使いには十分気を付けている。トイレ誘導の声がけは、トーンや言葉、失敗した時はさりげない対応に配慮している。発声が難しい方には、筆談を交え「うん」と「いいえ」で答えられる会話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択しやすい言葉を選び時にはジェスチャーを交えながら声がけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたいことを探りできるだけ希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら選んでいただき、難しい方には選びやすい方法で選んでいただいている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にお菓子づくりをしたり、野菜の皮むきなどできることはしている。昼食はフリーメニューにし、利用者の好きなものを提供している。	朝と夕食は、業者より温めるだけの状態で配達される。ご飯とみそ汁は作る。昼食は入居者の好みに合わせて職員が調理し、麺類やパンが多い。行事食や誕生日食がある。職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できる方には声がけて自立支援を促している。また、感染症防止のためうがい薬でのうがいもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やおむつの交換を行っている。	排泄チェック表を基に、定時の声かけや表情、ソワソワと落ち着かない動作はトイレサインと見逃さずに誘導している。オムツの方3名は居室で交換している。夜間のみポータブルトイレを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らない排便を促すためにオリゴ糖や食物などで排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の希望や状態により任意に変更し利用者の気持ちによって変更している。	週2～3回の入浴を基本としている。3ユニットに自動洗浄湯はり浴槽が導入され、一人ひとりの湯変えの負担が軽減した。浴槽を跨ぐのが困難な方に介護用リフトが導入され安全で安心な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々利用者の要望や体調に合わせて個室で休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見回り等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の処方薬の働きや注意事項を把握し、排便関係は状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性に合わせて洗濯、食器拭き、掃除など無理のない範囲でお願いすることで意欲につなげている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な外出支援についてはご家族と相談の上外出していただき、全体では季節が感じられるように野外の企画を考えて提供している。また、近所の買い物や公園への散歩なども実施している。コロナ禍で出来ない状況もある。	七夕祭り等、季節を感じる外出や秋保里センターに出かけていた。移転後の外出はコロナ禍もあり制限している。正月に近くの神社に初詣に行った。入居者は、長いこと手を合わせて参拝をしていた。天気の良い日はベランダで日向ぼっこをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行ったりスタッフが代わりに購入してくる場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に応じた飾りつけや、利用者の作品などをユニット内に展示し誰もが楽しめる空間を作っている。また、安全に利用できるように家具の配置を考えている。	リビングは明るく、定期的に窓を開けて換気をしている。空気清浄機を置き温湿度は適切に保たれている。壁に手作りの梅の木が飾ってあり季節を感じる。蓄音機から流れる懐メロに合わせて口ずさんでいる。温かく家庭的な雰囲気が漂う空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などところどころに椅子やソファを置いてくつろげる空間を作り利用していただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真を飾り、居心地の良い場所を作っている。	入口に表札が掛けてある。ベッドと洗面化粧台、チェストが備え付けである。椅子やテーブル、テレビ等等馴染みの家具は、家族が配置を考えている。家族の写真、位牌を置き安心して過ごせる部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示をわかりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		